

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度)

(宛先)岡崎市長

令和7年3月20日

団体名 OHPおかざき

代表者 山口百代

構成員 23 人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的: 聴覚障がい者のためにコミュニケーション支援をすることを目的とする。

1. 聴覚障がい者の社会参加を支援する。
2. 定例会及び臨時会合を開き、情報の交換をする。
3. 岡崎市難聴・中途失聴者の会への協力をする。
4. その他必要と認められる事業を行う。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
 なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
8/10	東部地域交流センター	地域住民	来場者	ふくしラボ東部イベントにて、難聴・中途失聴者への支援方法を伝えた
市内の学校	市内の高校・小学校	在学児童	各学校在校生	先生・児童に難聴者支援方法を伝えた
学区防災訓練	根石小学校 常盤南小学校	地域住民	防災訓練参加者	避難所での聴覚障がい者への対応
9/29	友愛の家 市民講座	参加者	40名	耳鼻科医の講演後、参加者の聞こえの悩み相談を受けた
9/12	福社会館	市職員を含む 来場者	参加者	「であい・ふれあい・つながりたい」の交流会にて難聴支援を伝えた

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。＜ex.自然環境＞

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

孤立されやすい難聴・中途失聴者への支援方法を講座等で市民に伝えるお手伝いができた。
 児童に関しては、福祉実践教室で高齢者難聴を伝え、家庭でのサポート方法をお伝えできた。
 コミュニケーション条例制定について、広報活動をした。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5 (4) 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

コミュニケーション条例制定への協力。

公的機関の場で、見えない障がい・難聴のことを広く市民にお伝えできた